



翫草 5 (卷百三十三、卷百六十六) || 神沢杜口

23

日本隨筆大成

第三期

吉川弘文館

日本随筆大成 第三期 第十三卷
昭和六年四月十五日発行

編纂者

日本随筆大成編輯部

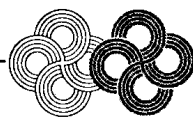
代表 早川純三郎

発行者

桜井庄吉

発行所

日本随筆大成刊行会



日本随筆大成

〈第三期〉23

昭和五十三年六月二十日 印刷
昭和五十三年七月五日 発行

編者 日本随筆大成編輯部

発行者 吉川圭三

発行所 株式会社 吉川弘文館

〒113 東京都文京区本郷七丁目二番八号
電話東京八一三一九一五一〈代表〉
振替口座東京〇一一四四番

製作 株式会社 たんちょう社

目次

翁	
草	
（卷之百三十三）卷之百六十六	
.....	
一	

（解題 北川博邦 小出昌洋）

初学

目 次

卷之百三十三

本願寺宗名願の事

一七

浄土真宗名義に付ての争ひ

卷之百三十四

同上 続

一七

の評論

浄土真宗名義に付ての争ひ
そ

卷之百三十五

大嘗会

三三

老樵夫伝灸治

天明七年大嘗会の次第

老樵夫伝

三三

雑話

傭夫が宛字 丹波狼原并八丁山

三三

白川侯求竜説

八十翁の言

三三

同上御居間の掛物

遊妓瓜生野

三三

卷之百三十六

小堀和泉守乱行邑除の事

九

伏見奉行小堀政寿の驕奢 免役

の次第 評定所の裁決文

卷之百三十七

洛陽大火

五

胴脉先生選長篇

京都大火の由

堂上の立退場

救済所

来

禁裏炎上

一般火災の図

卷之百三十八

同上 続

二〇

花紅葉都嘶の記事

焼失町数戸

数及その損害

禁裡回祿前例

卷之百三十九

雑話

江戸落書

白川侯の事数条

加藤寅之助の事

朝鮮来聘の説

御代官青木楠五郎一件

卷之百四十

下駄屋甚兵衛上書

二五

を関東郡代の許に上進す

下民困窮の状を述べてその救済策

与力同心の事并に木村勝右衛門の事

二四

二三

二三

二三

与力同心の起原 其の風俗の腐

敗 石崎石黒木村の評 俳士

淡々と木村との智

江戸芝居役者市川九蔵が事

蕪村との問答

卷之百四十一

古劇場役者

一四〇

其蛸の名堂上に達す

山下京左衛門片岡仁左衛門以下諸

岷江入楚

一四一

俳優の評

北野松梅院禪覺の本

北野文庫

古角力取

一四二

自写本

白山雷電稲妻谷風西国以下諸力士

深草焼陶器

一四三

の評

焦土中の陶器

日野家西園寺家の言

一四四

卷之百四十二

あだし言二篇

一四五

段識

自伝一斑

貴嶺扇

一四六

囲碁

一四七

碁打安井仙甫の上京

本因坊道

の細工

藤井友右衛門

策古今に独歩す

碁所

碁の

能役者

一四八

二条大政所能を好まる 加州の

役者粕谷次郎兵衛、小寺金七

天明炎上の記

某堂上家の記

卷之百四十三「春画」今除く

卷之百四十四

悲京火詞

火災の状況 京都の仮寓 書

籍類の焼失

関が原御陣論

合戦の始末 三成の大器 家

康の天運 日本一の大合戦

大坂御陣論

秀頼の猜忌 家康の耐忍 大

卷之百四十五

同上 続

寛永十五年二月二十七日落城

白川侯の入洛

入洛の行粧 聖護院御殿参向の

一六

模様

一七五

仏殿再興に付ての批難 片桐市
正と大野修理と

島原一揆論

一七

耶蘇宗侵入始末 一揆の猖獗
天草城代三宅藤兵衛の戦死 林

牧野兩監察の迂濶 板倉重昌の

戦死 松平伊豆守の下向 黒

田睡鷗の一番乗り

一五

豆州の慙愧話 松倉寺沢の処罰
一番乗の公裁細川に定まる 京

一七三

一八五

都の島原 肥前瘡 ヤンヨウ			
ス 神沢貞宜の事 神沢系譜			
山名禅高の事	二〇四	家康公雷の話	二〇六
禅高足利家より拝領の羽織 羽		雷に付ての用心	
織を着る俗		有来新兵衛が事	二〇六
畠山入菴の事	二〇五	有来氏の由来 和漢天子の弁物	
甲陽軍鑑の妄を誹る 三河後風		物の名の唱へやう	
卷之百四十六			
焼失の小説残篇		無準の一軸	二〇五
秀吉公鶴岡詣	二〇九	牧野備後守大小鮫	二〇六
和国髭の事	二一〇	売家の松	二〇六
土井利勝の事	二一一	榎島玄蕃允事并細川家中由緒の士	二〇七
肥後国を細川家へ賜ふ	二一二	大坂七組堀田図書助	二〇八
新番組の始并に諸組格	二一三	薩州池山与惣左衛門難船	二〇九
松平伊豆守信綱	二一四	琉球風俗	二一〇
卷之百四十七			
南紀侯童子訓	二三三	紀伊中納言治貞卿訓戒の書	

卷之百四十八

肥後侯賢行録

三三

儒臣片岡彦兵衛を登庸して政を輔

堀平太左衛門を登庸す

けしむ

三三〇

の創立 刑法の改正

紀州侯賢行録

三三〇

俟約身を守る

細井如来を聘す

米沢侯賢行録

三四

侯の歌及び逸事

三三〇

細井如来を聘す

竹股美作を用

侯の歌及び逸事

細井如来を聘す

ゐて旧弊を釐革す

興讓館を創

米沢侯賢行録拾遺

三三〇

立す 建学大意

撫民逸事

三三〇

肥後侯の学校

三四

尾張侯使者手控

三三〇

時習館の組織及び赤城博文館図

竹俣美作反对者処罰に付ての鷹山

三三〇

薩州学館

三四

公の書状

三三〇

組織の大略

泉州岸和田岡部美濃守殿善政の事

三三〇

若州小浜侯賢行録

三四

農家への訓諭三条

三三〇

西依成斎を聘して学を聴く

俟

孝子林平伝

三三〇

約を以て民を率ふ

備中笠岡人武島左膳選文

三三〇

城州淀侯賢行録

三四

卷之百四十九

年号の事

年号文字 難陳 条事定々詞

改元定奉奏詞 改元の詔書

新内裏御造営手始

白河侯より御作事奉行勘定奉行等
への口達 大坂三郷町町年寄へ

卷之百五十

雑話

八十賀

御目見以下御家人の巡列

御目見以下大概順

南谷和尚略伝

上賀茂社司氏人の論

卷之百五十一

今上御製

山霽喜春

柳宮御会始

三五 申渡されし書付

南都奉行三浦伊勢守支配下教諭の書付

孝を勧め欲を断たしむ

紀伊侯御家臣へ被仰渡御書付写

儉約をすゝむ 家老の添書

源氏坊天一等が事

由井正雪の党加藤市右衛門 天

一坊の人類 竹内式部山県大弐

窮楽大雅略伝

窮楽書を好くす 世俗に拘はら

ず 池大雅 玉蘭

連歌

禁裏御造営請負人の事

伊勢屋忠兵衛賞せらる

庶民競

二七〇

二七一

二八三

二八五

二九〇

ひて御造營に役せらる

和歌の神体

紀伊侯御自筆書附写并に領分へ被仰渡

二九四

他国文通の咄

二九六

書附

返事文の速答

俚約令

塙檢校の事

二九八

青木楠五郎倅亀之助の事

二九六

群書類從

亀之助十二歳にして父の流罪所に

院附与力処刑

三〇〇

赴く

中御門院与力浅田宇右衛門以下刑

信州内山村百姓惣右衛門倅亀松が事

二九六

せらる

亀松十一歳にして狼を殺し父の難

禁裏御賄役人処刑

三〇〇

を救ふ

御賄掛の不都合

田村肥後津田

松原通俊成卿社の事

二九六

能登以下の処刑

卷之百五十二

東照宮百五十回神忌

三〇三

城州八幡妻敵討

三〇三

明和二年四月於日光山

下村左仲

大野左門

淀鯉金

石州静の窟屋

三〇〇

の鶏

浜田領内の巖岨

薬師の銅像

卷之百五十三

花山院右府公の事

三三

金銀銅鉄 京都鑄銭所 鑄銭

右府の博覧宏材一世に秀づ

狐為僧来る事

三五

夢想の歌

三二

京都町奉行組同心田村清八狐僧と

の問答

碁家秋山仙朴の事

三六

当世百人一種

三三

仙朴山中に泊して無名の碁家と手

合せす

花の香

三八

楠公消息写 此度隼人云々

三四

庭樹

三九

武田信玄和歌

三四

新銭の事

三九

信玄の短冊外数葉

卷之百五十四

近世之和歌

三七

有栖川宮一品職仁親王以下

卷之百五十五

静坐百六十翁

三五

からし 山椒 山葵等

百六十と書くいはれ

島原の風人

三四

辛みの賦

三五

太祇 灯籠 五雲 心頭

河野豊前守

三五

老健の噂

三一

京町奉行となる

治績多し

厳格と風流

小浜志摩守

三六

小牧長久手戦後家康公上洛の事

三二

十七夜の湖月

三六

秀吉家康に縁を結ぶ

秀吉母を

十五夜に劣らず

自讃の句

三六

質として家康を招く

本多作左

島原の吞獅

三六

衛門

小栗又一の放言

驕奢を極む

卷之百五十六

大坂陣中の数説

三七

検

木村長門守の首

伴大膳

家康大坂落城の体を見る

首集

三七

片桐市正大野修理の評

卷之百五十七

真田左衛門佐信仍略譜

三三

大坂に至り秀頼に殉す

関ヶ原合戦に於る処置

子大助

三三

塙団右衛門尉直之略譜

三二

と共に大坂に至り秀頼に殉す

加藤家を出て福島家に仕ふ

大

後藤又兵衛尉基次略譜

三七

坂に至り秀頼に殉す

黒田家を去りて細川家に仕ふ

卷之百五十八

渡辺勘兵衛が事

三九七

藤堂の陣に在りて大坂役に長曾我

可児才藏吉長が事

四〇四

部の軍を悩す 後藤堂家を去り

笹の指物 泛々の首を取らず

江州大津に閑居す

老いて青年に劣らず 愛宕大権

前田慶次郎が事

三九九

滑稽と武勇と 前田利家の許を

榊原平十郎物語

四〇五

去りて上杉景勝に仕ふ

三枝勘兵衛黒田彦左衛門互に功を

岡野佐内が事

四〇三

佐内上杉家に仕へて伊達政宗と接

名家傾廃

四〇七

戦す 佐内の富裕 角栄螺の

足利家以来名家の没落廃絶

卷之百五十九

秀頼公の説

四〇九

大坂落城の状況 秀頼薩州に匿

長崎拔荷刑人の事 大村

四二三

れられたりとの説

通詞官梅三十郎の頓智

諸家由来の事

四一〇

本因坊道策の事

四二三

井伊 浅野 水戸 高松

琉球人道策の碁に感ず 碁に付